

野山が招くシーズンです

油断しないで楽しい一日を

新緑がまばゆいばかりのこの時期、ハイキングや登山、山菜採りなどで野山へ出かける機会や、農作業で田畑へ出ることが増えてきます。そこで注意してほしいのがツツガムシ病と遭難事故です。今年、大館ではすでに四人のツツガムシ病患者がでていますし、例年、遭難事故も後を絶ちません。油断と過信は禁物です。

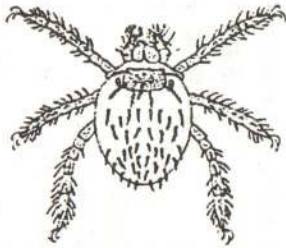
予防が大切ツツガムシ病

ツツガムシ病は「ツツガムシ病リケッチア」によって起こる病気で、代々親虫から受け継いだリケッチア病原体を持つツツガムシの幼虫に刺された時にだけ発病します。

ツツガムシの成虫は動物に吸い着くことはありませんが、卵からふ化したばかりの幼虫は、成長するために一度だけ温血動物から栄養を取る必要があって、野ネズミなどに吸着します。たまたまこの時期に人が刺されることがあるわけです。ただし、リケッチアを持っていないものに刺されてもツツガムシ病にはなりません。また、リケッチアを持っている確率は、せいぜい五百匹か千匹に一匹程度です。

症状

ツツガムシに刺されても、ほとんどの場合は気が付きません。発病して初めて分かることとなります。刺されやすい箇所は、陰部、内股、わきの下、胸、腹など、皮膚が柔らかい部分。何枚もの衣服で覆われている所がむ



日本にいるツツガムシは80種類以上。でも病原を持つのは数種類だけです。

予防

ツツガムシは、県内の全域に生息しています。これを絶滅させるのは困難ですし、絶対に刺されないための手段もありません。

しる多くなっています。リケッチアを持つツツガムシに刺されると、七日から十二日ぐらいの潜伏期間を過ぎてから、まず体がだるくて食欲がなくなり、次いでひどい頭痛や寒けと一緒に高熱が出てきます。

潜伏期間中は、刺された個所の周辺が赤い小さな水ぶくれになっていて、発病するころにはそれにうみがたまったようになります。黒いかさぶたになり始めています。さらに潰瘍(が)になるのですが、あまり痛くもかゆくもないので、それがツツガムシ病の初期とは思わないことが多いようです。

山の怖さも知ってください

入山の際の心得

- ①無理をせず、体調は万全に整えましょう
- ②山へ入る前に、自分が今いる位置をよく確かめてください
- ③常に目標物、例えば大きな樹木や送電線の鉄塔などを中心に行動しましょう
- ④集合場所・時間を決めて、必ずそれを守りましょう
- ⑤万が一に備え、防寒具・雨具・食糧・ライターなどを携帯するようにしてください
- ⑥早めの下山を心がけましょう
- ⑦単独行動は避けてください
- ⑧家族や友人へ、入山場所・帰宅時間などを必ず伝えておいてください
- ⑨クマによる事故も心配されます。ベルやラジオを鳴らすなどして十分用心しましょう

しかし、ちょっとした用心で刺される可能性を低くすることはできます。野山へ出かけたときは次のことに気を付けましょう。

- ①長ぐつやゴム手袋を着用し、できるだけ皮膚を露出しないようにする
- ②地面に直接腰をおろさないようにする
- ③帰宅後は入浴し、衣類を取り替える

④脱いだ衣類は部屋の中に持ち込まず、洗濯か日光消毒するリケッチアを持つツツガムシはごくまれです。また、ツツガムシ病は仮に発病しても、早期に適切な治療を受ければ簡単に治りますから、あまり神経質にならなくても大丈夫です。しかし、野山へ出てから異常な発疹があったり高熱が出たりしたら、すぐ医師の診察を受けてください。



いざという時には

☆道に迷ったり、グループからはぐれたりした場合は、歩き回らないで体力の保存に努め、捜索隊へ自分がいる位置を知らせる方法を考えてください

☆遭難があったら、すぐに110番へ通報してください

捜索には多額の費用が必要となります。一人ひとりが、また一緒に行動する仲間が互いに、十分注意しましょう